

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
<p>1 安心で希望に満ちた暮らしの創造</p> <p>【施策1】家族や地域の強い絆が息づく地域づくり</p> <p>施策1 - 家族や地域の絆が息づくコミュニティの創造</p>	362,362	327,698	<p>1 南阿蘇村立野地区地域再生等支援事業</p> <p>(1) 立野地区の地域再生支援 立野地区の具体的な生活再建に向けて住民自らが主体的に話し合う場として、「立野地域復興むらづくり協議会」(当初は勉強会)を7回開催した。 その中で、立野地区の将来像として「集落再生に向けた基本構想」を作成した。</p> <p>(2) 東海大学農学部のア蘇キャンパス再開支援 できるだけ多くの機能がア蘇キャンパスに残るよう断続的に東海大学と協議を行い、ア蘇キャンパスに新たな施設を建設することが決定した。また、本年4月から、ア蘇キャンパスでの実習が本格的に再開した。 さらに、平成30年1月に環境省、県、東海大学でア蘇地域の創造的復興に向けた協定を締結し、県では、南阿蘇村黒川地区の創造的復興に向けた取組みを開始した。</p> <p>2 地域づくりチャレンジ推進事業 熊本市の政令市移行後を見据えて策定した「政令指定都市誕生後の県内各地域の将来像(H23.12)」に沿って、市町村や地域住民等が地域を元気にするために自主的に行う地域づくりの取組み及び複数市町村等が連携・協働する広域的な取組みに対し、総合的な支援を実施した。</p> <p>(1) 市町村や住民の自主的な地域づくりに対する支援 補助件数68件、補助額132,548千円の支援を行った。 移住の促進分野 ・人吉市の空き家の実態調査及びデータベース作成等 起業の誘発分野 ・小国町における耕作放棄地を活用した大豆栽培及び加工販売等 交流の拡大分野 ・宇城市の三角西港築港130周年記念事業の開催等 絆の構築分野 ・玉東町の高齢者等生活支援サービス体制の構築等</p> <p>(2) 複数の市町村等が連携・協働する広域的な地域づくりに対する支援 高森町と南阿蘇村が連携して実施した南阿蘇鉄道全線復旧祈念イベントの開催や、天草市、上天草市及び苓北町が連携して実施した崎津集落や国立公園などの自然景観を活かした</p>	計画調査費のうち P138 ~ P139

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策1 - 家族や地域の絆が息づくコミュニティの創造)			<p>交流人口拡大の取組みなど15件、63,475千円の補助を行うなど、積極的に広域連携の取組みについて支援を行った。</p> <p>(3) 県が行う地域づくり支援                      県内の地域資源の掘り起こしや人材育成のほか、個別の地域における、住民を交えた地域づくりワークショップ、地域の課題に応じたアドバイザーの派遣など、次年度以降の地域づくりの後押しとなるような事業12件を実施した。</p>	
<p>2 未来へつなぐ資産の創造</p> <p>【施策4】災害に負けない基盤づくり</p> <p>施策4 - 地域を支える公共交通網の復旧・整備</p>	910,913	650,681	<p>1 地方公共交通対策事業</p> <p>(1) 地方バス路線の維持                      広域的・基幹的なバス路線を運行するバス事業者に対して補助金を交付した。また、路線バス等の維持やコミュニティバス、乗合タクシーの導入等、地域の実情に応じた取組みを支援するため市町村へ交付金を交付し、地域において必要な生活交通路線を維持した。</p> <p>(2) 生活航路維持緊急支援事業                      県内離島等の生活航路に対して運航支援を行う市町へ補助金を交付し、生活航路の維持を図った。</p> <p>(3) 南阿蘇鉄道の全線復旧に向けた取組み                      国の新たな支援策が決定し、災害復旧工事に着手したほか、持続可能な運営確保に向けた沿線地域の公共交通網形成計画を策定した。</p> <p>2 益城テクノ団地生活交通支援事業                      益城町テクノ仮設団地入居者が町中心部までの移動に利用する路線バスの運賃を負担し、被災者の生活を支援した。</p> <p>3 並行在来線対策事業                      肥薩おれんじ鉄道が行う鉄道基盤施設の整備・維持に係る費用を補助し、安全かつ安定的な運行を確保するとともに、観光列車の利用促進等の誘客対策、映画制作の決定等により、沿線地域の交流人口拡大を促進した。</p>	<p>計画調査費のうち P139                      企画施設災害復旧費のうち P411</p>

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果					目名	
(施策4 - 地域を支える公共交通網の復旧・整備)			【肥薩おれんじ鉄道利用人員の推移】						
				H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
			利用人員	1,390千人	1,304千人	1,243千人	1,184千人	1,171千人	
			定期外	316千人	299千人	309千人	260千人	257千人	
			通学定期	970千人	894千人	833千人	822千人	818千人	
			通勤定期	104千人	111千人	100千人	102千人	95千人	
2 未来へつなぐ資産の創造 【施策5】地域の特性を活かした拠点・まち・観光地域づくり 施策5 - 熊本都市圏東部地域等における復興のまちづくり	216,529	216,506	1 阿蘇くまもと空港国際線振興対策事業(再掲)(P20)に記載 2 阿蘇くまもと空港復興検討・推進事業(再掲)(P21)に記載						計画調査費のうち P139
施策5 - 地域資源を活かした観光地域づくり	360,851	326,122	1 地域づくりチャレンジ推進事業(再掲)(P13)に記載 2 「歩き」を活かした地域活性化プロジェクト事業 フットパス等の「歩き」を活かした交流人口拡大を図るため、旅行、宿泊、飲食、物産等「受入」側のネットワーク構築に向けた取組みや地域コーディネーターの養成、モニターイベント等を実施した。						計画調査費のうち P138 ~ P139
施策5 - 地域力を高める広域連携の推進	349,901	315,678	1 地域づくりチャレンジ推進事業(再掲)(P13)に記載						計画調査費のうち P138 ~ P139
施策5 - 人口のダム効果を活かした地域づくり	893,993	636,319	1 地方公共交通対策事業(再掲)(P14)に記載 2 並行在来線対策事業(再掲)(P14)に記載						計画調査費のうち P139 企画施設災害復旧費のうち P411
施策5 - 持続可能な地域づくり	349,901	315,678	1 地域づくりチャレンジ推進事業(再掲)(P13)に記載						計画調査費のうち P138 ~ P139
施策5 - 移住・定住の促進	349,901	315,678	1 地域づくりチャレンジ推進事業(再掲)(P13)に記載						計画調査費のうち P138 ~ P139
【施策6】くまもとの誇りの回復と宝の継承 施策6 - 熊本城をはじめとした歴史・文化の再生・継承	63,300	57,854	1 世界文化遺産登録推進事業 本県の3つの資産について、世界文化遺産への登録及び登録後の適切な維持・保全を目指した取組みを実施した。						計画調査費のうち P138 ~ P139

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
<p>(施策6 - 熊本城をはじめとした歴史・文化の再生・継承)</p>			<p>(1) 明治日本の産業革命遺産推進事業(万田坑・三角西港)            ・国・関係県市と連携し作成した保全状況報告書のユネスコ世界遺産委員会提出            ・関係市が策定する資産の修復整備活用計画への支援</p> <p>(2) 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産推進事業(天草の崎津集落)            ・ユネスコの諮問機関イコモスが行う現地調査や照会への対応            ・空港・駅への看板設置、ガイドブックの観光拠点での配布等による情報発信</p> <p>(3) 阿蘇世界文化遺産登録推進事業            ・阿蘇郡市7市町村による「阿蘇の文化的景観」の国重要文化的景観選定、周知啓発            ・有識者からの意見聴取、調査研究実施による「阿蘇」の世界遺産としての価値の整理</p> <p>2 くまもと文化魅力発信事業</p> <p>(1) 情報発信事業            熊本の歴史・文化の魅力について広く情報発信するため、熊本地震後の文化財の姿等について新聞連載記事の掲載やテレビ番組での紹介、パンフレットの作成・配布を行った。</p> <p>(2) 文化オリンピック推進事業            東京オリンピック開催を契機に文化的な創造基盤づくりを目指す「東京キャラバン」が県内各地で開催され、2,900名以上が参加した。</p> <p>3 「くまもと手仕事ごよみ」推進事業            熊本の「手仕事」(伝統の工芸、食、芸能等)を、暦と結び付けて後世に継承する取組みを実施した。</p> <p>(1) ホームページ及びフェイスブックの運営            ホームページや一般県民が参加するフェイスブックを運営し、地域の旬の情報を発信した。            ・ホームページアクセス数:206,324人(平成29年4月1日~平成30年3月31日)            ・フェイスブック新規フォロワー数:440人(平成29年4月1日~平成30年3月31日)</p> <p>(2) 広報            ・平成27年度に作成した二十四節気の動画を再活用し、天気フィラー映像として放送。            ・ムック本「自分らしい家づくり 暮らしと住まいの本 くまもと」に熊本の手仕事に関する記事を掲載。            ・2017くまもと地域振興フェア「WONDER MESSE KUMAMOTO」(10/27~28)及びR K Kキラキラファクトリー(12/16~17)にくまもと手しごと研究所のブースを出展。</p>	

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策6 - 熊本城をはじめとした歴史・文化の再生・継承)			<p>4 県立劇場管理運営事業(ア トキャラバンくまもと事業)</p> <p>県立劇場が有するネットワークを活用して、音楽や演劇などの文化芸術を小・中・高等学校等に届けるなど、熊本地震からのこころの復興に繋がる取組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施場所 益城町、御船町、宇城市、玉名市、山鹿市、熊本市ほか県内各地</li> <li>・実施回数 100回</li> <li>・参加人数 11,837人</li> </ul>	
施策6 - 阿蘇の草原など自然・景観の再生・継承	22,658	20,857	<p>1 阿蘇草原再生事業</p> <p>阿蘇草原の次世代への継承を目指し、草原再生の担い手の裾野拡大や放棄地の野焼き再開等を実施した。</p> <p>(1) 多様な支え手の拡充</p> <p>「かばしまイニシアティブ」に基づき、野焼き・輪地切りと草原を体感できる食や散策等をパッケージにしたバスツアー(119名参加)の実施を支援。自衛隊OBの参画等を得て、草原管理の難易度に応じたボランティア約191名を確保。併せて、野焼き後継者約23名の育成を図った。</p> <p>(2) 野焼き再開支援</p> <p>平成27年度に約半世紀ぶりに野焼きを再開(30ha)した草千里で、野焼きの実施に必要な支援を行い、地元主体による定着への道筋をつけた。その他、山都町柳牧野、阿蘇市西湯浦牧野など、約100haで野焼きの再開支援・再開後のフォローアップを行った。</p> <p>2 阿蘇草原保全・活用事業</p> <p>「国立公園満喫プロジェクト」に選定された「阿蘇くじゅう国立公園」において、新たな草原再生の支え手の掘り起こしとインパウンドの増加を実現するため、草原景観を活用したジャパンエコトラックのルート認定とその後の活用に向けた取組みに対する支援を実施し、阿蘇のルートが、九州初(沖縄を除く。)となるジャパンエコトラックルートの認定を受けた(平成30年2月22日)。</p>	計画調査費のうち P139
施策6 - スポーツを通じた熊本の誇りの継承と発信	9,782	9,768	<p>1 ロアッソ熊本支援 県民運動推進事業</p> <p>平成21年2月に官民連携により設立された「ロアッソ熊本を」1へ」県民運動推進本部に対する負担金の支出を行い、次のような地域振興・街づくり事業を実施した。</p> <p>(1) 地域交流事業</p> <p>ホームゲーム会場において、県内市町村と連携し地域物産展の開催を支援。また、市町村等が行う地域イベントに選手等を派遣。</p> <p>(2) 応援気運醸成事業</p> <p>看板・フラッグを作成し、ホームゲーム試合会場周辺や駕町通り商店街等県内商店街に掲出。</p>	計画調査費のうち P139

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策6 - スポーツを通じた熊本の誇りの継承と発信)			<p>(3) 広報事業 ポスター・カレンダー配布や、九州内チーム対戦時にスタンプラリー等の広報イベントを実施。</p> <p>(4) サポーター等連携事業 サポーター等と連携し、県民との交流事業「ロアッソ熊本大忘望年祭」を実施。</p> <p>2 ロアッソ熊本によるサッカー普及振興事業 県内におけるサッカーの普及、県民のサッカー技術の向上、子どもたちの夢づくりを促進するために、サッカー教室や交流事業(講演会、座談会、勉強会)を実施した。</p> <p>3 復旧・復興発信事業 県内プロスポーツチームの情報発信力を活用して、熊本の復旧・復興の姿を県内外に広く発信した。</p> <p>(1) 熊本の復興をPRするVTR・横断幕の制作、試合会場での放映・掲示。</p> <p>(2) ロアッソ熊本と熊本ヴォルターズが連携し、復興イベントを開催。</p>	
<p>3 次代を担う力強い地域産業の創造</p> <p>【施策9】自然共生型産業を核としたオープンイノベーション機能の確立</p> <p>施策9 - 復興の原動力となる新たな事業の創出と起業の促進</p>	100,507	95,199	<p>1 次世代ベンチャー創出支援事業 県、肥後銀行、熊本大学、熊本県工業連合会、(株)リバネスの5者で構成するコンソーシアムによる創業支援プログラム「熊本テックプランター」を運営・展開し、発掘したベンチャーの研究開発等を促進するため事業化可能性調査を実施した。</p> <p>2 ふるさと投資応援事業 ふるさと投資の周知・普及や、被災中小企業者8件のふるさと投資活用に係る事業計画作成支援等を実施した。</p> <p>3 水俣・芦北地域産業振興等推進事業 平成28年7月に策定した第六次水俣・芦北地域振興計画において、産業振興と雇用確保を最重要課題として位置づけている。この取組みを推進するため、平成22年12月に県、地元市町、経済団体等で「水俣・芦北地域雇用創造協議会」を設立し、県職員と地元市町からの専従職員による事務局を設置し、以下の事業を実施している。 環境省の補助事業や、県単独の負担金等を活用しながら、「食と農」分野の事業者支援や交流人口の拡大(ツーリズム)により、雇用創造に取り組んだ。</p>	<p>計画調査費のうち P139 ~ P140</p>

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策9 - 復興の原動力となる新たな事業の創出と起業の促進)			(1) 異業種間連携・販路拡大支援事業 ・和紅茶のブランディング、食品関連展示商談会への出展支援等 (2) 水産物ブランド化支援事業 ・マガキ養殖の支援等 (3) 水俣・芦北地域ツーリズム推進事業 ・インバウンド誘客の推進等 (4) 人材育成事業 ・事業者向けセミナー、高校生就職支援(模擬面接会等)の実施等	
<b>【施策10】</b> 地域資源を活かす観光産業の革新・成長 施策10 - 観光産業の革新と高付加価値化	58,891	54,899	1 くまもと版DMO推進事業 観光産業の再生・発展及び地域活性化を推進するため、観光地域づくりを広域的に担う株式会社くまもとDMCの運営を支援した。 2 「くまもとフリーWi-Fi」整備事業費補助金 観光客等が災害時における情報収集等のための安定した通信環境の確保を図るため、民間施設が設置する熊本県公衆無線LAN「くまもとフリーWi-Fi」の整備に対する補助を実施し、宿泊施設や公共交通機関等9か所を整備した。	計画調査費のうち P138 ~ P140
施策10 - 観光資源の再生と新たな魅力の創造による観光振興	649,261	585,320	1 地域づくりチャレンジ推進事業(再掲)(P13)に記載 2 並行在来線対策事業(再掲)(P14)に記載	計画調査費のうち P138 ~ P139
<b>【施策11】</b> 地域を支え次代を担う人材確保・育成 施策11 - 教育環境の再生・充実及び大学等の研究機能の活用	144,436	95,789	1 「環境首都」水俣・芦北地域創造事業 水俣病関連施設、環境に対する高い市民意識や蓄積された環境産業技術、美しい自然など地域の有形無形の環境資源を発展的に活用した「環境負荷を少なくしつつ、経済発展する新しい形の地域づくり」(「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法の救済措置の方針」平成22年4月閣議決定)を目指すため、環境省の補助事業を活用し、以下の事業を実施した。	計画調査費のうち P139

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(施策11 - 教育環境の再生・充実及び大学等の研究機能の活用)			(1) ゼロカーボン産業団地創出等事業(県、水俣市等) ・ななうら型「食と農」創造(販路拡大、アボガド実証栽培、和紅茶ブランディング、水産物のブランド化の支援等)、研究活動の誘致等、生態系に配慮した渚造成に係る環境アセス等、環境配慮型農業の農林水産業の推進等 (2) 公共空間整備事業(水俣市、津奈木町) ・湯の鶴温泉街交流拠点公園整備、赤崎小学校跡地利活用に伴う交流広場整備 (3) 低炭素型観光推進事業(県、水俣市等) ・地域資源(薩摩街道、湯の児、エコパーク水俣)を活かした体験・交流型観光の推進、観光情報発信等	
施策11 - 復興を担う次世代の人材確保・育成	15,536	15,449	1 人材ネットワーク構築事業 主に首都圏に在住する熊本県に縁のある人材をネットワーク化し、その力を熊本の活性化につなげることを目的として、熊本コネクションプロジェクトを以下のとおり実施した。 (1) 熊本コネクションの絆強化と熊本の現状を知る取組み ・大交流会、総会 ・業界魅力発信セミナー (2) 人材活用事業 ・会報誌発行 ・熊本の課題を検討し、熊本を成長させる「くまもとグローアッププロジェクト」 ・高度人材を活用して熊本の課題解決に具体的に取り組む「くまもとエンボディメントプロジェクト」 (3) ホームページ・データベースの管理、機能強化	計画調査費のうち P139
4 世界とつながる新たな熊本の創造 【施策12】空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化 施策12 - 「大空港構想Next Stage」に基づく阿蘇くまもと空港の復旧・機能拡充	247,433	247,409	1 阿蘇くまもと空港国際線振興対策事業 平成28年4月の熊本地震で運休した国際線のうち、同年6月に定期便の運航が再開していた台湾高雄線に加え、ソウル線は平成29年4月に定期便が再開、香港線は11月に定期チャーター便が就航し、熊本地震前の3路線が全て再開した。 平成29年10月には阿蘇くまもと空港国際線の利用者数が累計100万人を突破し、さらには、平成29年度の国際線利用者数は、約15万6千人(国速報値)となり、過去最高を記録するなど、阿蘇くまもと空港の創造的復興が加速化している。	計画調査費のうち P139



(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果					目名
(施策12 - 「大空港構想Next Stage」に基づく阿蘇くまもと空港の復旧・機能拡充)			【阿蘇くまもと空港利用者数の推移】					
				H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	
国内線	3,009,739人	3,055,112人	3,163,477人	2,947,589人	3,187,803人			
国際線	45,826人	51,806人	70,567人	34,609人	156,161人			
計	3,055,565人	3,106,918人	3,234,044人	2,982,198人	3,343,964人	国速報値		
(1) 熊本～ソウル線								
平成29年4月からティーウェイ航空が週4便の定期便の運航を開始。								
エアソウルも同年4月から週2便のインバウンドチャーターの運航を開始し、10月から定期便化した。								
(2) 熊本～高雄線								
平成29年5月に、くまモン等のキャラクターをデザインした特別塗装機「三熊友達号」を運航開始。くまモン人気を活用し、台湾をはじめアジア地域からの更なる利用者増に取り組んでいる。								
(3) 熊本～香港線								
平成29年11月から、香港エクスプレスによる定期チャーター便での熊本～香港間の直行便が再開され、平成30年5月20日から定期便化が実現した。								
(4) その他の路線								
韓国の釜山に本社を置くエアプサンが、平成29年12月から平成30年2月までの間、熊本～釜山間で、週3便、合計33往復のインバウンドチャーター便を運航。同社は、平成30年4月から6月までの間も週3便、合計29往復のインバウンド、アウトバウンド双方向の利用が可能な定期チャーター便を運航した。また、平成30年3月から4月にかけて、台湾に本社を置くエバー航空が、熊本～台北間で合計8往復のインバウンドチャーター便を運航した。								
2 阿蘇くまもと空港復興検討・推進事業								
阿蘇くまもと空港運営の民間委託に向け、現地視察・セミナーを開催(126社202人が参加)するとともに、国等関係者との協議・調整を適宜行い、国の募集要項の年度内公表(H30年3月)を実現した。								
3 総合交通体系整備推進事業								
阿蘇くまもと空港へのアクセスを改善するため、肥後大津駅(愛称：阿蘇くまもと空港駅(平成29年3月4日～))と空港をつなぐ空港ライナーを無料で運行し、平成29年度の利用者数は過去最高を記録した。								

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名																								
(施策12 - 「大空港構想Next Stage」に基づく阿蘇くまもと空港の復旧・機能拡充)			【参考：空港ライナー利用者数の推移】 <table border="1" data-bbox="902 308 1881 528"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23年度 10～3月</th> <th>H24年度</th> <th>H25年度</th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間利用者数</td> <td>21,401人</td> <td>50,897人</td> <td>62,758人</td> <td>77,007人</td> <td>94,606人</td> <td>84,452人</td> <td>97,788人</td> </tr> <tr> <td>1日当り利用者数</td> <td>116人</td> <td>138人</td> <td>171人</td> <td>210人</td> <td>257人</td> <td>230人</td> <td>267人</td> </tr> </tbody> </table>		H23年度 10～3月	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	年間利用者数	21,401人	50,897人	62,758人	77,007人	94,606人	84,452人	97,788人	1日当り利用者数	116人	138人	171人	210人	257人	230人	267人	
	H23年度 10～3月	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度																					
年間利用者数	21,401人	50,897人	62,758人	77,007人	94,606人	84,452人	97,788人																					
1日当り利用者数	116人	138人	171人	210人	257人	230人	267人																					
【施策13】世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出 施策13 - 世界とつながる国際人材の育成・活躍支援	2,823	2,177	1 くまもと若手芸術家海外チャレンジ事業 官民出資による世界チャレンジ支援基金を活用し、芸術家を目指す学生や若手芸術家8名に対し、海外での研修に係る渡航費用を支援した。	計画調査費のうち P138 ~ P139																								
5 川辺川ダム問題・水俣病問題・TPPへの対応及び適切な行財政運営 (1) 川辺川ダム問題	1,011,409	825,719	1 川辺川ダム問題に係る総合調整 (1) 球磨川治水対策協議会 戦後最大の被害をもたらした昭和40年7月の洪水と同規模の洪水を安全に流下させることを目標とした治水対策を網羅的に検討し、国土交通省、熊本県及び流域市町村の間で共通の認識を得ることを目的として、平成27年3月に協議会を設置した。 平成29年度は第8回「球磨川治水対策協議会」、第3回「整備局長・知事・市町村長会議」を開催した。会議では、これまでの協議会における検討結果を踏まえ、治水対策の組み合わせ案の検討方針及び治水対策の進捗状況について意見交換を行った。 (2) 球磨川水系防災・減災ソフト対策等補助金(県補助金 決算額134,266千円) 流域市町村の防災・減災ソフト対策に対する財政支援を行うこととし、その財源とするため、平成27年3月球磨川水系防災減災基金を設置した。 平成29年度は、流域市町村が地域の実情に応じて実施する予防的避難、水防資機材の購入、内水対策など65事業に対して支援を行った。	計画調査費のうち P139 ~ P140																								

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(1) 川辺川ダム問題)			<p>2 五木村の振興</p> <p>(1) ふるさと五木村づくり計画の推進(県交付金 決算額84,593千円)  平成20年末に制定した五木村振興推進条例に基づき、村と共同で「ふるさと五木村づくり計画」を策定。「働く場づくり」、「暮らしづくり」、「ひとづくり」を3つの柱とした振興策を毎年度実施計画として取りまとめ、広域的連携の下、村とともに推進している。  平成29年度は農林水産業の振興や観光・交流の促進など68事業に取り組んだ。  なお、県は同計画を推進するため、五木村振興基金(10億円)を活用した財政支援や人的支援(H29は村派遣1名、駐在2名、人事交流職員1名、球磨地域振興局専任職員1名の配置)を行った。  【主な取組み】  ・新たにオープンした五木村歴史文化交流館のPRを中心に近県旅行会社への訪問営業活動を強化。観光客数は、震災前まで回復(H28:150千人 H29:174千人)  ・五木産材の流通を担う仕組みづくり(五木源住宅新築数:15棟)  ・移住・定住フェアへの参加等によるU・Iターンの促進、お試し住宅の設置(6戸)</p> <p>(2) 五木村の生活再建に向けた基盤整備事業の推進(県交付金 決算額342,475千円)  平成23年6月の国、県、村の三者合意に基づき、国の交付金制度のほか、県が表明した総額50億円の財政支援も活用し、平成24年度から村の生活再建に向けた基盤整備事業を実施した。  【村が取り組んだ主な基盤整備の内容】  ・観光交流施設整備(宮園地区大イチョウ周辺整備、水没予定地東部エリア(コテージ等)の整備)  ・道路ネットワーク(村道折立線外5路線の改良等、林道八重線の開設)  ・その他(飲料水供給施設改修、お試し住宅整備工事)  なお、県は、地元からの要望が特に強い国道445号の整備を引き続き実施した。</p>	
6 その他 (7) 「熊本復旧・復興4カ年戦略」の推進	9,904	6,493	<p>1 熊本復旧・復興4カ年戦略推進事業</p> <p>(1) 熊本復旧・復興4カ年戦略(以下「4カ年戦略」という。)の着実な推進を図るため、政策評価や外部有識者10名で構成する「熊本復旧・復興4カ年戦略委員会」の開催(1回)を通じて、各施策の主な成果や課題、方向性を明確化するなど、成果重視の県政運営を図った。</p> <p>(2) 4カ年戦略の進捗状況を分かりやすく周知するためのパンフレット「進捗レポート2017」を作成、配布し、県民の認知度向上を図った。</p>	計画調査費のうち P138 ~ P140

(企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(7) 「熊本復旧・復興4カ年戦略」の推進)			<p>2 県民アンケート調査事業 20歳以上の県民を対象に、以下のアンケート調査を実施し、県民の幸福量を測る指標「県民総幸福量」を算出するなど、本県の政策の評価や立案につなげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民の幸福に関する意識調査（平成29年6月実施：回収率48.6%）</li> <li>・熊本復旧・復興4カ年戦略に関する意識調査（平成29年6月実施：回収率43.0%）</li> <li>・県民生活や県の取組みに関する意識調査（平成29年6月実施：回収率52.8%）</li> </ul>	
(8) 御所浦地域振興策の推進	14,988	11,948	<p>1 概要 離島というハンディキャップをできる限り解消し、島民が住み慣れた地域で夢と誇りに満ちた暮らしを実現できるよう、平成27年2月に取りまとめた振興策について、平成29年度も着実に推進。</p> <p>2 御所浦地域活性化推進事業（企画振興部）</p> <p>(1) 地域おこし協力隊の配置 地域活性化に取り組むリーダー役として、第2期協力隊を1名募集し、決定。平成30年度から活動開始。</p> <p>(2) 移住・定住の促進 平成27年度に実施した空き家実態調査を踏まえ、活用可能な空き家を抽出・選定し、空き家物件改修補助（天草市への補助）や体験モニターツアー等を実施。</p> <p>(3) 地域通貨を活用した地域づくり 住民同士が支え合う仕組みを構築するため、地域通貨を活用した取組みを継続実施。依頼会員43名、サポート会員36名、加盟店15店舗が登録。ゴミ出しや掃除等799件の支援を実施。</p> <p>(4) 観光交流の促進 宿泊型マラソン大会（第2回島あじマラソン大会）を平成30年2月に開催し、関東や九州各県など島外から130名が参加。</p> <p>(5) 高速通信網の利用促進補助 平成28年度に整備した高速通信網の利用促進のために天草市が実施する取組に対する補助を実施。</p> <p>3 御所浦航路振興事業（企画振興部）</p> <p>(1) 定期航路運賃割引事業 御所浦地域の港を発着する定期船の旅客・車両運賃の割引を継続実施。平成28年度からは当地域住民以外まで対象を拡大し、平成29年度は旅客157,919人、車両40,936台が利用。</p>	<p>計画調査費のうち P139</p> <p>計画調査費のうち P139</p>

## (企画振興部)

(単位：千円)

主要な施策	予算額	決算額	施策の成果	目名
(8) 御所浦地域振興策の推進)			<p>(2) 御所浦航路利便性強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 御所浦～棚底航路 御所浦地域の通学生徒を対象に、海上タクシー利用料金の支援を継続実施。延べ1,818人が利用。</li> <li>・ 御所浦～水俣航路 海上タクシーの週4便から週5便への増便支援(天草市への補助)を継続実施。</li> </ul> <p>(3) 生活航路維持確保支援事業 御所浦地域の生活航路に対する運航支援(天草市への補助)を継続実施。</p> <p>4 施設通所等交通費支援事業(健康福祉部) 乳幼児健診の受診者、障がい者福祉施設への通所に要する交通費の無料化支援を継続実施。29人(延べ1,101回)が利用。</p> <p>5 御所浦高校生通学支援事業(教育委員会事務局) 高校通学者に対する交通費の無料化支援(天草市への補助)を継続実施。22人が利用。</p> <p>6 求む!御所浦Dr.(健康福祉部) 御所浦内診療所に勤務する医師への研究手当及び交通費の助成を継続実施し、平日夜間も受診可能な環境を整備。</p> <p>7 御所浦医療施設施設整備事業(健康福祉部) 御所浦診療所・北診療所及び御所浦歯科診療所の施設改修工事に対する支援(天草市への補助)を継続実施。</p> <p>8 御所浦医療施設設備整備事業(健康福祉部) 御所浦診療所・北診療所及び御所浦歯科診療所における設備整備に対する支援(天草市への補助)を継続実施。</p>	<p>社会福祉総務費のうちP167</p> <p>教育指導費のうちP361～P362</p> <p>公衆衛生総務費のうちP195</p> <p>公衆衛生総務費のうちP195</p> <p>公衆衛生総務費のうちP195</p>
	947	799		
	1,602	1,557		
	4,570	4,570		
	3,030	3,010		
	10,574	10,438		